

2014年度受託研究概要報告

既存建築物の改修を通したまちづくりの提案

研究メンバー

川北健雄	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
花田佳明	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
小菅瑠香	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手
中村 卓	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手

委託者

大和船舶土地株式会社

研究概要

平成22年度～23年度にかけての受託研究「個別更新を通した住宅地の魅力づくりに関する研究」および平成24年度の受託研究「既存建築物の改修によるシェアハウスの実現」の成果を継承しつつ、さらに発展させることをめざして、既存建築物の改修デザインを中心とするまちづくりのための提案、ならびにこれらに関連する業務を行った。

依頼されたひとつめの研究内容は、受託先の不動産事業のうち、特に賃貸住宅のデザインと、それらの集積によるまちづくりの方針を定めるための全般的な助言である。研究期間中、研究チームのメンバーは何度も受託先や複数の不動産事業の対象地を訪れ、社会の新しい動きに適合する整備方針について、受託先と共に議論を重ねた。さらに、下記の3件の建築物については、具体的なデザインの決定に関しても、様々な提案を行った。

設計者および事業者に対して、デザイン上の助言を行ったもの：

- ①賃貸住宅[街の縮図としての集合住宅 (Y's House 禅昌寺11) (須磨区禅昌寺町1丁目10-11)
 - ②賃貸住宅 (リノベーション) [外部性を宿す都市の箱 (水木通プロジェクト) (兵庫区水木通8丁目1-24)
- 私たち研究チームが直接デザインを行ったもの：
- ③長屋改修による「キオスク」付シェアハウス (須磨区禅昌寺町1丁目27)

研究成果

前回の研究期間中に改修デザインを行った「鈴木文化シェアハウス」は、本研究期間中の平成25年10月にグッドデザイン賞を受賞した。また、本研究期間中に助言・提案と改修デザインを行った上記の①～③の3つの物件全て、本研究期間終了後の平成26年10月にグッドデザイン賞を受賞し、平成22年度以来継続的に進めてきた本研究の具体的な成果物が、外部からもたいへん高い評価をいただくという結果となった。

これらのうち、私たち研究チームが直接デザインを行った「禅昌寺キオスク」は、老朽化した3軒長屋を、2階部分に3つの個室、1階部分に共用スペースを有するシェアハウスに組み替えたものである。平成26年4月に竣工し、5月から本学の学生3名が入居している。設計上の工夫としては、閉鎖的になっていた街角部分に開放的な休憩所を設け、外に置かれていた自動販売機も取り込んで、近所の人々が気軽に立ち寄ることのできるまちの「キオスク」とした。シェアハウスの玄関は、ショーウィンドウもある吹抜けの土間空間とし、劣悪であった建物中央部の通風採光を大きく改善した。「キオスク」と共用スペース、そして3つの個室は、すべてこの空間を介してつながっている。若者たちとご近所の方々が、一緒に縁側で話をする姿も見られるようになっている。小規模ではあるが、まち全体、社会全体を射程にいったプロジェクトであり、実際に学生たちがここに暮らすことで、近隣に対してどのような変化が起こりうるかを試してみる実験的なプロジェクトにもなっている。

